

藤沢市未来共創会議総括資料

目次

1. 実施概要：P3
2. 各回アウトプットサマリー
 1. 藤沢市全域セッション
 1. 令和4年度：P6
 2. 令和5年度：P7
 2. 地域版セッション
 1. 令和3年度（村岡地区）：P8
 2. 令和4年度（遠藤・御所見地区）：P9
 3. 令和5年度（辻堂・明治地区）：P10
3. 未来共創ビジョン
 1. 藤沢市全域セッション
 1. 令和4年度：P11
 2. 令和5年度：P12
 2. 地域版セッション
 1. 令和3年度（村岡地区）：P13
 2. 令和4年度（遠藤・御所見地区）：P14
 3. 令和5年度（辻堂・明治地区）：P15
4. まとめ：P16

実施概要

- 藤沢市では、政策形成及び地域人材の育成に資するため、人生100年時代を迎え、概ね20年先を見据えた将来の「まちづくり」について、地域住民をはじめとする地域における多様な関係者（ステークホルダー）が、地域の実情を共有し、対話することで、新しい発想や考え方を柔軟に取り入れた魅力と活力のある都市の共創を目指し、以下の2つの形式で「未来共創会議」を開催した。
- **藤沢市全域セッション**：藤沢市全域から世代や職業などが異なる多様な参加者を募り、参加者同士が対話を通じて想いを引き出しあい、自分ごととして実現したい「**ありたい未来の藤沢市の姿**」を共創し、「**ありたい未来が実現したときの暮らしのシーン**」を具体的に描いた。
- **地域版セッション**：藤沢市内の特定の地区において、各地区の世代や職業などが異なる多様な参加者を募り、参加者同士が対話を通じて想いを引き出しあい、自分ごととして実現したい「**ありたい未来の地域の姿**」を共創し、「**ありたい姿を実現するための具体的な活動企画**」を考えた。
- それぞれのセッションのアウトプットから、地域の多様な関係者が、魅力と活力を感じる未来の「まち」の姿を「**未来共創ビジョン**」として事務局にてとりまとめた。

開催概要

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
藤沢市全域セッション	未実施	オンライン開催 Day1：12/10 Day2：12/17 Day3：1/14 参加者：各回約35名	オンライン開催 Day1：12/16 Day2：12/23 Day3：1/13 参加者：各回約20名
地域版セッション	村岡地区 オンライン開催 Day1：3/5 Day2：3/12 Day3：3/19 参加者：各回約35名	遠藤・御所見地区 対面開催 Day1：2/11 Day2：2/25 Day3：3/4 参加者：各回約35名	辻堂・明治地区 対面開催 Day1：3/9 Day2：3/16 Day3：3/23 参加者：各回約20名

進め方概要

藤沢市全域セッション（オンライン開催）

- Day1：目的：藤沢市の魅力や課題を共有する
 - 実施内容：過去のセッションで作成したビジョンを見ながら、共感するポイント、違和感を感じるポイントを出し合い、**藤沢市の魅力や課題を共有**するとともに、対話を通じて**関係性を構築**する
- Day2：目的：ビジョン（問い）を共創する
 - 実施内容：Day1でできた藤沢市の魅力や課題の具体化や抽象化を行い、昨年度のビジョンをブラッシュアップし、藤沢市全体の**ビジョン（問い）**を共創する
- Day3：目的：ありたい暮らしのシーンを描いてみる
 - 実施内容：ビジョンが実現したときに、どのような暮らしが実現しているか、**具体的な暮らしのシーン**を描いてみる

地域版セッション（オンライン・対面開催）

- Day1：目的：地域の魅力や課題を共有する
 - 実施内容：参加者それぞれが感じるその**地域の魅力や課題を共有**し、理想の地域をあらわすキャッチフレーズを考えると同時に、対話を通じて**関係性を構築**する
- Day2：目的：ビジョンを共創する
 - 実施内容：理想の地域が実現したときの具体的なシーンを考え、**理想の地域が実現したときに起きている出来事を新聞記事の形で描く**
- Day3：目的：活動企画を考える
 - 実施内容：Day2で描いた**ありたい姿を実現するために必要な活動企画**を考える

※各日3時間

アウトプットサマリー：藤沢市全域セッション令和4年度

ビジョン	具体的な暮らしのシーン概要
自分らしくホッとできるまち	仕事や暮らしが効率化し空いた時間で趣味を楽しめている メタバースを活用し仲間づくりができています
ワクワクできるまち	まちなかににぎわいのある場所ができています 農業が若い世代に伝わり自然を楽しめている
生涯元気に活動できるまち	学びたい時に学びたいことを学んでいる 自分のできることを活かしていつまでも活躍できている
思いを実現できるまち	自分のアイデアを気軽に話せる場所がある 自分のアイデアが実現できる仕組みがある
つながりをもてるまち	やりたいと思ったことを気軽に体験できている 多世代の情報が共有できる場がある
安心・安全・健康にらせるまち	安心安全な交通が確保されている 多世代の交流からお互い学んでいる
世界に自慢できるまち	藤沢市全域の特徴のあるエリアをテーマパークのように便利に行き来できている 藤沢市の特産品がトータルブランディングされ知られている

アウトプットサマリー：藤沢市全域セッション令和5年度

ビジョン	具体的な暮らしのシーン概要
自分らしくホッとできるまち	世代を超えて安心感を感じて暮らしている
ワクワクできるまち	新たな技術を活用したつながりがうまれている それぞれの地域が特色を活かして活性化している
生涯元気に活動できるまち	誰もがバーチャルでもリアルでも好きなことができています
思いを実現できるまち	誰もが自分を信じやりたいことができています
つながりをもてるまち	ゆるくつながり合いモノやコトが循環している それぞれの得意なことを活かして地域での交流を深めている
安心・安全・健康にらせるまち	望まない事故・災害による被害が減っている
世界に自慢できるまち	地域発のエンタメを活かして藤沢の認知が向上している 住民の社会参画意識が向上し世界から注目されている

アウトプットサマリー：地域版セッション令和3年度（村岡地区）

理想の藤沢市	問い	活動企画タイトル	活動企画概要
自分らしくホッとできるまち	どうすれば、藤沢市の企業が地域のつながりをつくり、地域の子どものやりたいことを後押しできるだろうか？	藤沢市の子どもの夢を地域企業が育む	<ul style="list-style-type: none"> 地元企業や地元商店街によるあらゆる年齢層の子ども向けの職業体験 藤沢市がこれらの情報を集約し発信することで、さらなる企業誘致や、教育に熱心な若い家族の移住のきっかけとなり、子どもたちが地元企業に就職し、藤沢市で家庭をつくるという循環に期待
ワクワクできるまち	どうやったら、わくわくしたまちがくれるだろうか？ やりたいことが試してみられるしくみはどうしたら作れるのだろうか？	子どものワクワクを実現するフィールド～子どもまちづくり会議 →(改) 子どもSDGs会議	<ul style="list-style-type: none"> SDGsに関するアイデアを子どもたちが出して、企業とタイアップし、クラウドファンディングで実現する仕組み。 今の行政のしくみ（予算、組織）とは別のものを立ち上げ、スピード感をもって自分たちの発想したことを実現していく。
生涯元気に活動できるまち	どうすれば、若い世代が地域に関わっていただけるか？	地域指向を育てる	<ul style="list-style-type: none"> 若い世代が地域を知るきっかけ作りになるために、学校で地元の工場見学や、地域の人が出張教室をおこなってくれる。 市の人材バンクを活用し講師を集め、コミュニティ形成も目指す。
思いを実現できるまち	どうしたらこの大学をプラットフォームに地域の活性化、地域住民のイキイキ化につなげられるだろうか？	藤沢未来人生大学始動のための人材情報収集	<ul style="list-style-type: none"> 藤沢市在住の企業OBが講師となり人生経験をもとにした講義を行う、藤沢未来人生大学の開校に向けた、講師集め、興味がある学科のニーズ調査などを、人材バンクや自治会との連携を通じて行う。
つながりをもてるまち	誰もがつながれる居場所をつくるにはどうしたらいいか	面白い企画を持ち寄れる場をつくる（ネットでもいいが最初は対面）	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな人が面白い企画を持ちよれる場所をつくる。イベントなどを頻繁に行い、いろいろな人が来る目的をつくり、つながりをつくっていく。
安心・安全・健康に くらせるまち	どうすれば、その道の良さ・名所の良さをリアルに伝えられるだろうか？	楽しいから歩いてちょう！ ～みんなで作ろう、地域の魅力～	<ul style="list-style-type: none"> 地域で歩くための、いろんな目的別マップをつくる。犬の散歩や、パン屋めぐりなどの身近なテーマ。 ウォーキングのためのコースを整備する。アプリで歩いたコースが残ったり、コース近辺で見られる動植物が確認できる。
世界に自慢できるまち	どうすれば世界一のまちにするために、様々な壁（人＜人種・言語・世代＞、エリア＜行政・地域・地区＞、交通＜渋滞＞）を超えることができるだろうか？	はじめの一步 ～世界一のまちづくりのために～	<ul style="list-style-type: none"> 言語の壁を越えるために、多言語対応をすすめ、学生の留学（ホームステイ）を進める。 ポストンとの姉妹都市化を進め、まず学ぶ。 iParkへ優秀な人材を確保し、人的交流の場をつくりスタートアップの拠点化する。

アウトプットサマリー：地域版セッション令和4年度（遠藤・御所見地区）

グループ	未来編集会議タイトル	概要	現在と大きく変わっていること	問い	活動企画
A	遠藤・御所見ドローンポート完成！	物流・交通の中心がドローンになり、道路の問題が解消している	西北部の交通課題を解決及び自然環境を生かした地域活性化	道路の存在意義は何か？	ドローン活用で不用となった道路を自然的用途で再活用した地域活性化
B	世界初！！遠藤・御所見花の街に年間1200万人	各家庭の庭先の花が有名になり、多くの観光客が訪れるようになっている	新しい仲間がいる	どのように「花の街」にするか？	「花の街」として地域の各家庭の庭の花を1200万人の観光客が観にくる！！
C	タイムスリップできる町！！	コミュニティ馬車などにより、昔の良さを活かし、エコなまちになっている	いろんな世代、いろんな場所の人が来るようになっている	自然に優しい、人に優しい移動手段とは？	自然と生きる！！コミュニティ馬車
D	世界が認めた幸せな農ある街 遠藤・御所見	農業を中心に発展し、健康寿命も伸びている	農業が持続可能になっている	すべての人がしあわせな人生を生きるには？	食の自給率を高め、健康を維持できる農業をすすめる
E	ゆったりと過ごせるまち、No1遠藤・御所見に選定	遠藤・御所見のいいところを活かしたフェスが開催されている	地元の魅力が出せる	どうすれば地域が大切にする里地・里山を残しつつ、人が集まる魅力的なまちになるだろうか？	地域の魅力をつなぐ路面電車のまち
F	ついに発見！孤立のないまち 神奈川県藤沢市北部の地区が「おかえりなさいのまち」として統合！！	障がいのある人とない人、高齢者と若者などが、それぞれのできることで、お互いに助け合う社会になっている	若い世代と出会い交流できている	どうすれば、人が自然と支えあう文化を根付かせることができるだろうか？	御所見・遠藤「おかえりなさいのまち」"May I help you?"プロジェクト

アウトプットサマリー：地域版セッション令和5年度（辻堂・明治地区）

グループ	未来編集会議タイトル	概要	課題	問い	活動企画
A	Fujisawa Palm & Pine Quest 開催！！	辻堂海浜公園で開催される、子どもがお年寄りからクエストを受注して解決するロールプレイングイベント	横のつながりがない 安心して話し合えない	どうすれば多様な人たちが安心してつながることができるだろうか？	既存の異なるコミュニティを共通のテーマでつながるきっかけをつくるイベント開催
B	ついに開通！！ 辻堂シーリエア	特色のある地域をつなぐ新しい交通網で南北のつながりができている 移動弱者も助かり交通渋滞、防災の問題も解消している	辻堂駅の南北のコミュニティや移動が分断している	インフラに頼らず交通渋滞を解消できるか？	歩ける範囲（500m圏内）で、生活に必要な機能をパッケージ化・モジュール化する
C	世代間交流グランプリ受賞！！	デジタル回覧板をアナログで回覧する仕組みで、世代間グランプリを受賞！！	必要な情報が共有されていない	どうすれば地域のみならず情報の共有ができるだろうか？	商店街の空き時間を利用したスナックで地域の人々が持っている情報を共有する
D	住みたい街ランキング15年連続1位！！！！	地域の子どもたちが運営するメタバース商店街に多くの人々が買い物に来ている	子どもが社会を学ぶ機会がなく将来設計ができない	子どもの自主性を活かすには？	子どもが自主的に商売できるように、まわりの大人がサポートする子ども自主特区

未来共創ビジョン：藤沢市全域セッション令和4年度



多世代の交流からお互い学んでいる

安心安全な交通が確保されている

まちの魅力 (人・場) を知る

学びたい時に学びたいことを学んでいる

自分のできることを活かしていつまでも活躍できている

安心・安全・健康にくらせるまち

生涯元気に活動できるまち

やりたいと思ったことを気軽に体験できている

まちなかににぎわいのある場所ができています

ワクワクできるまち

人生100年時代の藤沢市

つながりをもてるまち

農業が若い世代に伝わり自然を楽しめている

やりたいことを一緒に試せる

多様な知が交流する

多世代の情報共有できる場がある

仕事や暮らしが効率化し空いた時間で趣味を楽しんでいる

自分らしくホッとできるまち

思いを実現できるまち

自分のアイデアを気軽に話せる場所がある

メタバースを活用し仲間づくりができています

世界に自慢できるまち

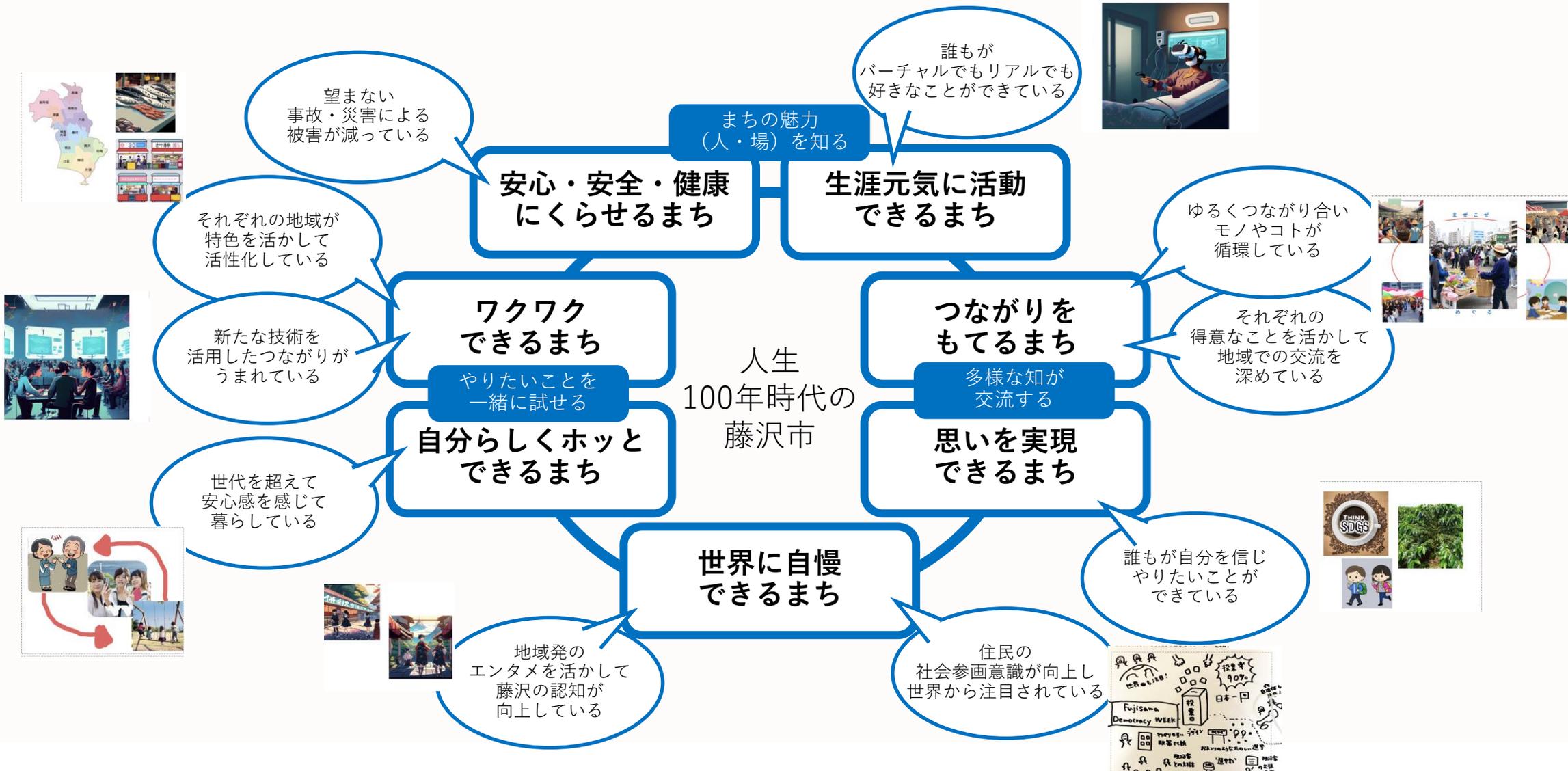
自分のアイデアが実現できる仕組みがある

藤沢市の特産品がトータルブランディングされ知られている

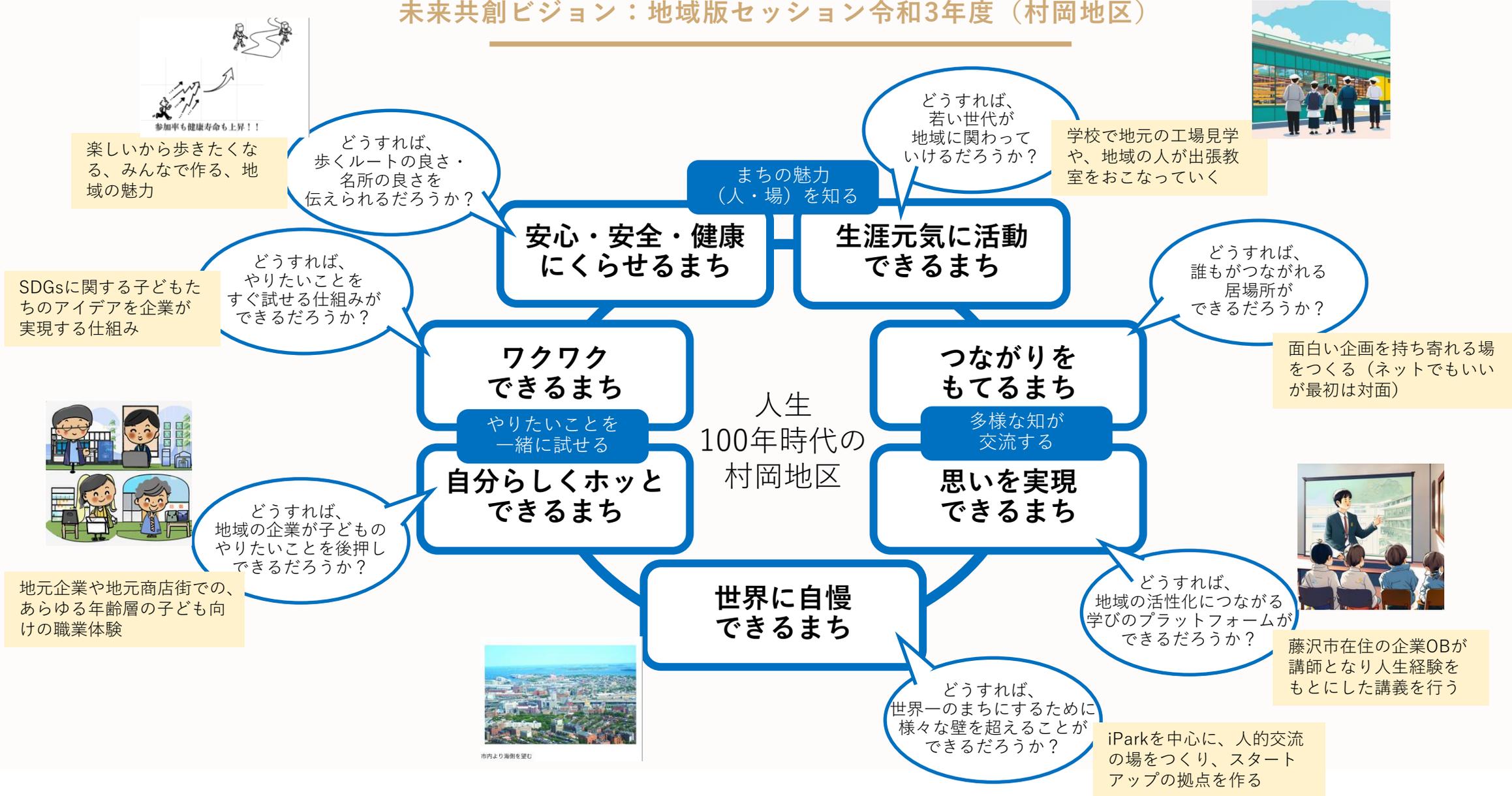
藤沢市全域の特徴のあるエリアをテーマパークのように便利に行き来できている



未来共創ビジョン：藤沢市全域セッション令和5年度



未来共創ビジョン：地域版セッション令和3年度（村岡地区）



未来共創ビジョン：地域版セッション令和4年度（遠藤・御所見地区）



たとえば
『ドローン活用で
不用となった道路を
自然的用途で再活用した
地域活性化』

安心・安全・自由に
移動できるまち

お互いが支え合い
暮らしているまち

たとえば
『御所見・遠藤
「おかえりなさいのまち」
"May I help you?"
プロジェクト』

人生
100年時代の
遠藤・御所見地区



たとえば
『地域の魅力をつなぐ
路面電車のまち』

それぞれができること
でまちの魅力をつ
くっているまち

あるものを活かし
持続可能な暮らしが
できるまち

たとえば
『自然と生きる！！
コミュニティ馬車』

たとえば
『「花の街」
各家庭の庭の花を
1200万人の観光客が
観にくる！！』

たとえば
『食の自給率を高め、
健康を維持できる
農業をすすめる』

まとめ

• 藤沢市全域セッション

- オンライン開催にすることで市内全域から様々な世代・属性の参加者が集まり、多様な未来の暮らしのシーンが描けた。
- まちづくりに関心がある人の参加が多く、オンラインながら活発な対話が行われた。
- 参加者の活動地域が多様なため、チームでの活動は生まれにくいと考え、チームで一つのアウトプットを作成するワークは設定していないが、セッション中の対話を通じてセッション終了後も一部で参加者同士の自主的なつながりが継続している。

• 地域版セッション

- もともと地域で活動している人の参加が多く、具体的な話題が多いため、地域外から参加している人の地域への理解も深まった。
- 地域の魅力や課題を話すことから始めるなど、地域を意識するセッションの構成にしていることなどから、地域特有のアウトプットを生み出した。
- 理想を実現するための具体的な活動企画については、早期の実現を期待させるものがいくつも生まれた。

• 今後に向けて

- セッション終了後も参加者同士のつながりを継続・促進する仕組みの提供が望まれる。
- 理想を実現するための活動企画を支援する仕組みの提供が望まれる。
- 上記のつながり支援、活動企画の支援を行い、また、地域版セッションの他地域への展開を促進するためのファシリテーションができる地域人材の継続的な育成が望まれる。